

# 全 員 協 議 会 記 録

令和3年11月1日(月)  
10時07分～10時47分  
議場

〔出席議員〕

臨時座長：牛尾議員

肥後議員、村木議員、大谷議員、三浦議員、沖田議員、足立議員、村武議員、  
川上議員、柳楽議員、串崎議員、小川議員、上野議員、笹田議員、布施議員、

岡本議員、芦谷議員、永見議員、佐々木議員、田畑議員、西田議員、川神議員、

〔執行部〕 出席なし

〔事務局出席〕 局長、次長、浜野書記

---

## 議 題

### 1 正副議長選挙前の所信表明会について

#### (1) 議長選挙所信表明者（届出順）

- ・ 芦谷 英夫 議員
- ・ 笹田 卓 議員
- ・ 佐々木豊治 議員

#### (2) 副議長選挙所信表明者（届出順）

- ・ 小川 稔宏 議員
- ・ 川神 裕司 議員
- ・ 柳楽真智子 議員

### 2 その他

- ・ 正副議長選挙の注意事項について
- ・ 本会議再開時間について

【詳細は会議録のとおり】

## 【会議録】

〔 10時 07分 開議 〕

牛尾座長  |  ただいまから本日2回目の全員協議会を始める。では議題に入る。

## 1 正副議長選挙前の所信表明会について

## (1) 議長選挙所信表明者（届出順）

- ・ 芦谷 英夫  議員
- ・ 笹田  卓  議員
- ・ 佐々木豊治 議員

牛尾座長  |  最初に議長選挙所信表明を行う。議長選挙所信表明者は届け出順に16番芦谷英夫議員、13番笹田卓議員、18番佐々木豊治議員の3名である。届け出をされた方々は椅子を用意しているので、前に出て椅子におかけいただきたい。届け出順に所信表明を行っていただき、全員が終了後、議員からの質疑を行うこととする。

芦谷議員  |  芦谷英夫である。このたび超党みらいの推挙を受け議長選挙に立候補する。皆は市民の審判をしっかりと受けてここにおられる。選挙戦では明日の浜田をつくることも訴えられて当選された。改めて敬意を表する。

今、浜田市議会は議会基本条例の制定、情報公開、通年会期制の導入、広報広聴の充実など、いろいろな成果を上げている。これについて先人のこれまでのご努力に敬意を表する。とはいえ、まだまだ大きな課題があると思っている。

その一つは歴史文化保存展示施設。これについては市長選挙であれだけ沸騰しても、新聞によるとそのアンケート結果、市議会の反応はほとんどない。いわば市長が土俵で相撲を取るのに、議会はそこに上がっていない。二元代表制の体を成していない。このようなことが、このたびの市長選挙とそして新聞のアンケート記事に散見された。

もう1点は市民の参加は大事である。当然、陳情にもしっかりと答え、地域の隅々の思いを市政に反映される。しかしとはいえ、そのことが毅然と行われず陳情と称して市議会の無用な不正常、混乱を起こしている。ここはしっかりと議員が襟を正して、そのことをする必要がある。

なおそのことが職員の疲弊、健康被害にも影響を及ぼし、市の職務執行にも影響を及ぼしている。このことをきちんと正すのも議会の責任である。

三つ目に議会にはルール・慣例がある。委員会の委員は2年任期、委員長は他の委員長を兼務できない。そういったルールがあり、これは22人の広範な意見をしっかりと、議会の運営にかかわり、広範な市民の意見、市の隅々の意見を拾い上げようとい

牛尾座長  
笹田議員

った先人の知恵である。加えて議長は第1会派、副議長は第2会派、これも議会運営の王道である。したがってそうした合議体の健全な運営をするために、皆の賢明なご判断を賜りたい。皆はそれぞれ政見を訴え、施策を訴え、当選の栄に浴した。今、目の前に曇りがあり、心の底によどみがあれば、この曇りを捨ててよどみを洗い流して気持ちを真っ白にして、白い投票用紙に芦谷英夫と書かれることをお願いして、壇上からの決意とする。どうぞよろしくお願い申し上げます。

元の席にお戻り願う。続いて13番笹田卓議員、壇上へ。

13番議席の笹田卓である。まずはこのたび皆は28人が立候補した厳しい市議会議員選挙に当選された。まことに祝い申し上げます。

それでは今回、議長選への立候補表明を行うとともに、所信の一端を述べさせていただきます。

私は3期12年、市民から目線というスローガンを掲げて市政発展のために精進してきた。市民からは多岐にわたる声を耳にする。コロナウイルス感染症による生活・地域産業への負担増、出生数の激減、少子高齢化、水産業の衰退、地域文化の継承、学力低下など、それぞれの問題に対して課題を明確にし、的確な対応を講じてほしいと市民は切に願っておられる。その市民に応える議会、市民から必要とされ信頼される議会になることが望まれる。

私が議長に就任した暁には、そのような議会になるよう全身全霊で働く所存である。必要とされ信頼される議会となるよう、次のようなことを進めていく。

さらに議会改革を進める上で特に力を入れるべき事項は、委員会活動の強化、広報広聴活動の強化に加えて、申し送られている事項についても取り組みながら、活動の見える議会を目指していく。

まずは委員会活動の強化について。総務・福祉・産業の三つの常任委員会では、報告事項、所管事務調査、議案質疑だけでなく、率先して政策提言を行うなど委員会の役割をより一層強めてきた。さらに議会機能を充実させるためには、そこから政策立案、条例制定まで進めていく必要がある。予算編成スケジュールに合わせ、テーマの選定、議論、提案、考察などを行う政策形成サイクルを確立させることが議会機能を高めるために重要ではないかと考えている。

次に広報広聴機能の強化について。議会だよりも一新され、市民から「よくなった、見やすくなった」など多くのお褒めの言葉をいただいた。また、はまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）では多くの市民が参加され、第16回マニフェスト大賞の優秀躍進賞を受賞した。しかし市民から必要とされ信頼される議会になるには、さらなる広報広聴機能を高める必要がある。

市議会を知ってもらうために小・中・高の学校にも出向っていくことも必要である。地域協議会から複数回数実施の要望があった意見交換会をさらに充実させる必要もある。また、委員会単位でこちらから出向いて、さまざまな団体と意見交換を行うことも必要だろう。真摯にさまざまな意見を聞く必要があり、とにかく出向いて信頼を勝ち取るように働く必要がある。

次に議会改革の申し送りについて。私が初当選した12年前に比べて議会改革は格段に進んだ。議会基本条例の制定、通年会期制の導入、タブレットの導入など、挙げれば切りがない。それも先輩議員の努力のたまものだと思っている。今後は前回の議会改革特別委員会の申し送りにある、住民参加の機能拡充による議会への理解度向上、議会による主権者教育やシチズンシップの教育の推進、議会におけるICTの活用と推進なども進めていく必要があると考えている。議会改革は永遠の課題である。議会改革は日進月歩で常に進んでいる。そのときに必要な議会改革は率先して進めていく。

いろいろ申し上げたが、本当に一番大切なのは、ここに選ばれた22人が市民にとって最良の選択は何かをしっかりと議論することである。そんな議会をつくりたいと考えている。皆様にお力をお貸しいただければ幸いである。定数を減らすべきだ、報酬を下げるべきだなど、消極的な意見を向けられることなくきちんと仕事をしていると言われるような議会を目指していきたいと考えている。議会基本条例には、浜田市議会議員は石見人としての誇りと高い識見を備え、全国の地方議会の模範となる議会改革を掲げて絶えず精進し、全ての市民が安全で安心して幸せに暮らすことができるよう最大限の努力をしなければならぬとある。今回一人会派もなくなり、四つの会派に変わった。市民の期待に応えていくための船出だと思っている。新生浜田市議会として、市民から必要とされ信頼されるよう最大限の努力をしていく。

最後になるが、皆様のご協力をお願いし、甚だ簡単ではあるが私の所信表明とする。

元の席へどうぞ。続いて18番佐々木豊治議員、壇上へお上がりいただきたい。

公明クラブの佐々木豊治である。誠に浅学菲才ではあるが、今回の議長選立候補の表明を行うとともに、所信の一端を述べさせていただきます。

2名という少数会派の中からこのような表明をするのは心苦しく思うところではあるが、勝ち負けだけではなく今後の議会運営に一石を投じたい思いもあり、立たせていただいた。

10年前当時、大変苦勞して制定した議会基本条例制定以降、市議会の取り組みや活動の進化を続けてきた。その一端として通年会期制の導入によりいつでも開ける議会になったこと、委

牛尾座長

佐々木議員

員会活動では議案審査や所管事務調査に加え、市民の声を聞き先進事例を学ぶ中で、議員間討議を重ねながら政策提言や要望書につなげるようになったこと、市民の声を拾い上げ市民生活に必要な政策や要望など訴える一般質問では、毎回ほとんどの議員が質問に立ち論戦を重ねていることなどある。また、広報広聴の取り組みも、議会報告会、井戸端会、そして今年は市民の声を議会全体で聞く市民一日議会の開催を行うなど、市民とともに歩む議会に変わりつつあると感じている。議会だよりも年々充実を重ね、見やすい紙面の工夫が進められており、市民の評価も高くなっている。これは各議員が市民の負託に応えたいとの気持ちのもと、議会が団結して取り組んできた成果とも思う。新たな取り組みも視野に入れながら、これまでの取り組みをさらに精査し、より評価されるものにしていきたいと思う。議員は皆違う環境や立場、支援者の方々などから選ばれている。当然議員それぞれの環境も考え方も違う。だからこそ多様な市民の負託を得た議員として集まって議論し、結論を出すことに重要な意味もある。議会が二代表制の一翼を担う機関として位置づけられている意味も、そこにあるものと思う。

今回勇退された議員もおられるが、多くの先輩諸氏が作り上げてこられた浜田市議会進化の流れをとめることなく、議会がさらに団結して前進していかなくてはならない。私はより住民とともに歩む議会を目指し、汗をかかせていただきたい。

次に議員が活動しやすい環境の充実である。地方分権の流れとともにそれを監視する議会の役割と責務は大きくなっている。議員が資質向上に努力することは当然ながら、議員それぞれがより自分らしさを出し活動しやすい環境もつくっていかなくてはならない。また、これから地方政治家を目指す若者たちが議員に手を挙げたくなるような環境づくりも必要である。議員が活動しやすい環境整備を充実させていきたい。

今後変えていきたいこと、時間の都合上1点ほど申し上げる。例えば予算決算審査のあり方である。予算決算の審査においては現在、長時間で多額の経費をかけ運営されている。審査の流れとして予算決算委員会に付託はするものの審査は各常任委員会での分科会として行うことを今後検討していくべきではないかと思う。

今回の市長選で久保田市長には、市民から厳しい意志が示されたと思う。議決機関、監視役としての議会の役割はより重みを増してきたと思う。今回新しい議員も誕生し、新たな視点が増えたことも併せ、より機能する議会構築に努力していくことを誓い、所信表明とさせていただきます。議員各位のご賛同をよろしくお願い申し上げます。

牛尾座長

以上で議長選挙のための所信表明が終了した。ただいま所信表明をされた3名の方に対し、質疑があれば挙手をお願いする。

質疑はないか。

( 「なし」という声あり )

質疑はないようなので所信表明者は議席へお戻りいただきたい。

(2) 副議長選挙所信表明者 (届出順)

- ・ 小川 稔宏 議員
- ・ 川神 裕司 議員
- ・ 柳楽真智子 議員

牛尾座長

続いて副議長選挙所信表明を行う。副議長選挙所信表明者は届出順に、11番小川稔宏議員、21番川神裕司議員、9番柳楽真智子議員の3名である。届出された方々はいすを用意しているので、前に出ていすにおかけいただきたい。届出順に所信表明を行っていただき、全員が終了後、議員からの質疑を行うこととする。小川稔宏議員、壇上へ。

小川議員

11番議席、超党みらいの小川稔宏である。副議長立候補に当たったの決意の一端を述べさせていただきたい。

浜田市議会の最大の課題は、言論の府あるいは熟議の場と言われる議会が、自由闊達で真摯な議論ができる環境にない実態を直視し、原因を取り除く努力を行うこと、早急な対策を講じることでありと考えている。議会としての品位が失われているという言われ方もしている。また、秩序が乱れ、正常とは言い難い議会運営の現状がある。この状態をあるべき姿に戻していかなければならないと考えている。今、人口減少社会が避けられない中であって人口が減ったとしても市民一人一人の尊厳が守られ、福祉の増進を図ることが重要で、この議会の現状では難しいと考えている。価値観が多様化し意見の対立も存在する中にあり、倫理観を持った議論を保障し共通認識と合意形成の努力を図り、そして得た結論に対しては説明責任を果たす。議会としての機能を維持し二元代表制のもとでの健全な議会運営のもとで、民主主義を基本とした地方自治を守っていくことが市議会としての任務であると考えている。議員を含めた公務員は全体の奉仕者であって、決して一部の市民の奉仕者であってはならない。議会改革は進み市民参加の機会が増えている。その結果、議員を志す人が多くなったことは大変画期的なことと感じている。しかし反面、制度の悪用や権利の乱用も散見される。委員会等で率直な意見が言いづらい状況にあることは、まさしく民主主義の危機であり、正すべきは正すという強い意志と責任を持った早急な改善が必要と考えている。

このたびの正副議長選をめぐっては、こうした議会の課題に対しての議論、すり合わせが置き去りにされ、数の駆け引きが先行している感があり大変残念に思っている。2年前にも議長任期について問題視し意見も述べてきたが、特定の人が長期にわ

たって議長団を担わなければならないような、余人にかえがたいという特段の事情は見当たらない。会派が大きくなればなるほど少数意見を大切にしてほしいと考えている。通常だと第1会派から議長、第2会派からは副議長、これが筋だと考える。それと違う結果が出るならその説明責任をきちんと果たさなければならぬと感じている。大きな声の陰で1人でも泣いている人をつくってはならないというのが私の心情である。今回の選挙の中で私自身、市民の皆に訴えたことは、認め合い・つなぎ合い・支え合うことを通して市民の皆の命と暮らしを守っていくこと、そして皆の笑顔を守りたい、このことを約束してきた。そのためには理不尽なことや不条理なこと、これらに対してはきちんと抗し、人としての尊厳を守るためにこのたび立候補を決意した。どうか皆のご理解をいただきたいということを重ねてお訴えを申し上げ、私からの決意表明とさせていただきます。ご静聴いただき感謝する。

牛尾座長  
川神議員

続いて21番川神裕司議員、壇上へ。

21番創風会、川神裕司である。今回副議長選挙に立候補したので所信の一端を述べ、議員の皆にご理解とご支持を賜りたいと思う。

まずは議員の皆さん当選をお祝い申し上げる。さて4年前、2014年日本創生会議発表の896の消滅可能性自治体リストに我が浜田市の記載があり、改めて歯どめがかからない人口減少に危機感を覚えた。さらに少子高齢化の進展、2025年問題の対処不足、地域経済低迷も加わり、地方都市浜田の活力低下を痛感した。今後未体験の超少子高齢化時代を迎え、その時代を防ぐため、まちづくりと議会運営は新しいステージに突入したと感じていた。それら諸課題の解決を、先頭に立ち推進したいと思い、4年前の議長選挙に立候補した。そのときの議会運営重点テーマとして3点掲げさせていただいている。

1点目に情報公開を中心とした、市民に信頼される開かれた議会運営、2点目に地方自治法138条にうたわれている議会事務局機能の強化、議会基本条例に示された政策討論会の開催等、行政監査機能の強化、そして3点目に、中山間地域振興特別委員会の新設など、政策提言の具体的実施である。改選前の議会において議員各位のご協力をいただき、これらの諸課題に議会全体で取り組み、その議会のかじ取り役としての議長職を、地方自治法に定められた4年間を全力で務めさせていただいた。確かに議会改革における情報公開の進展は着実に実施できたと思うが、委員会における情報公開等に関してのルール徹底が必要である。委員会による条例提案はすばらしいものがあるが、さらに委員のスキルアップを含めた政策提言への取り組みが必要である。

また、マニフェスト大賞優秀賞に登録された市民一日議会も、市民との距離が縮まったタイムリーな広聴活動であるが、今後

の展開では広報広聴委員会のさらなる議論が必要である。

今、自治区制度が終わりを迎え協働のまちづくりという新しい制度が始動している。周辺地域の方々の安心感の担保のためにも、中山間地域対策に関しては議会も一層のかかわりを持つ必要がある。浜田市を未来へ向け存続させていくためには、住民参加の地域づくりが基本だが、若者や女性の活躍できる仕組みをきちんとつくるのが今後の鍵を握るのは明白である。安心して暮らせるまち、地域に誇りを持てるまち、可能性に挑戦できるまちの実現のためには、官民一体の取り組みはもちろんのこと、執行部と議会が常に緊張感を持ち、連携する議会運営が不可欠である。まさに二元代表制の一翼を担う議会の責任が、より重くなっていくという認識を持たなくてはならない。議会と市民の方々との距離を縮め、市民の声に耳を傾け、議員全員で問題解決に取り組むことが重要ではないだろうか。

そして現在の最優先課題の新型コロナウイルス対策は、議会と執行部が一丸となり取り組まなくてはならない極めて重要な問題である。市民の声をしっかり受けとめ、引き続き感染防止の徹底と、落ち込んでいる経済の再生に挑戦する必要がある。このような思いを持ち続け、本来は引き続き議長立候補の勢いだが、組織の新陳代謝、トップリーダーの若返りを含め、しっかりトップリーダーのサポートを行いたいと考え、副議長に立候補した。確かに議長職の直後に副議長立候補は違和感があるという意見がある。しかしながら新人議員も増加し、議会運営もさらに市民目線で改革していかなければならない実情を見たときに、新しい議長を、今までの議長経験を十分生かして、議長団に参加する形で後方からしっかりと支えることが私の役割と思い、この場所に立っている。当然ながら会派の中でしっかり話をさせていただいた同僚議員の思いも受けて頑張りたいと思う。ぜひ皆様方のご理解をいただき、ご支援をいただくことをお願い申し上げ、立候補の一言にさせていただく。どうぞよろしく願います。

続いて9番柳楽真智子議員、壇上へ。

公明クラブの柳楽真智子である。初めにこのたびの副議長選挙に立候補させていただくに当たり会派でさまざまな話し合いを行い、苦悩の末に出した結論であることをぜひともご理解いただきたい。それでは私の所信を述べさせていただく。

新型コロナウイルス感染症の影響がさまざまなところで続いている状況の中、このたびの市議会議員選挙で市民の皆の負託を受けた私たち議員そして議会が果たすべき役割と責任は、ますます重くなっていると思っている。浜田市議会では先輩議員の皆の努力により議会基本条例が制定され、これまでさまざまな議会改革に取り組んできた。私が議員に初当選させていただいた8年前と比べても、前向きな議論が重ねられ市民に開かれた

牛尾座長  
柳楽議員



議会を目指し、地域井戸端会の開催や各種会議のネット配信、議会だよりの充実も進み、また本年は市民一日議会も開催した。これらの取り組みに加え、議会改革は市民生活の向上につながるかならなければならないと思う。そうした観点から申し上げれば議会の持つ機能の一つである政策立案機能を発揮することが重要である。現在進めようとしている議員間討議や政策提言につながる各委員会での取り組みは、課題解決のためにしっかりとした調査・研究を重ねるとともに、その手法についても検討を行い、何よりも全議員が共通の認識を持って進めることが必要だと考える。

また市民の皆からは、議会や議員の活動が見えない、議会は執行部の追認機関ではないかなど、議会に対する厳しい声がある。どこまでも市民のためにとの視点で自己研鑽を重ね、議員としての資質を高めていかなければならない。私自身このことを忘れてはならないと言い聞かせていく。

議員自らの資質向上のために政務活動費や議員研修会などを有効に活用し、視察等に関しても必ず質問や政策提案につなげていきたい。議員は所属する政党も違えば、それぞれの意見、政策に違いがあつて当然であるが、最良の決定を生み出すためにお互いに調和を図りながら議論と対話を重ねることが重要だと考える。その思いに立ち、議長を全力で支え、全議員の皆とともに力を合わせ、さらなる議会改革に取り組んでいきたいと思っている。

以上で私の所信表明とさせていただきます。皆のご支援をよろしく願います。

牛尾座長

以上で副議長選挙のための所信表明が終了した。ただいま所信表明をされた3名の方に対し質疑があれば挙手をお願いする。質疑はあるか。

( 「なし」という声あり )

ないようなので、所信表明者は議席へお戻り願う。

## 2 その他

- ・ 正副議長選挙の注意事項について
- ・ 本会議再開時間について

牛尾座長  
古森局長

2点について事務局から説明をお願いする。

まず1点目。正副議長選挙の注意事項について。本会議再開後に直ちに議長選挙に移るので注意事項をお知らせする。

まず、白票は無効である。法定得票数は有効投票数の4分の1以上になる。また先ほど申し上げたが、議長選挙に係る開票の立会人は大谷議員と三浦議員をお願いする。

議長選挙後は臨時議長から議長に交代し、議席の指定を行い、その後副議長選挙に移る。副議長選挙における開票立会人は沖田議員と足立議員をお願いする。

牛尾座長

2点目は本会議の再開時間について。本会議は11時から再開したいのでよろしくお願いいたします。

皆よろしいか。

( 「はい」という声あり )

では11時から本会議を再開するのでよろしくお願いいたします。次の本会議で議長が決まるので、これで臨時座長としての職務を終了した。ご協力に感謝する。

以上で全員協議会を終了する。

[ 10時 47分 閉議 ]

浜田市議会全員協議会規程第6条の規定により、ここに全員協議会記録を作成する。

臨時座長 牛 尾 昭